

“Who is Canon Gideon?” 「ギデオン参事司祭とは？」

i 略語の説明

ABC = 節制、貞節、コンドーム

AGM = 年次定例会

ANERELA+ = HIV/エイズと共に生きる、或いは自らも罹患者である宗教指導者のアフ
リカネットワーク

ART = 抗レトロウィルス療法

INERALA+ = HIV/エイズと共に生きる、或いは自らも罹患者である宗教指導者支援
ネットワーク

SSDDIM = 汚名、不名誉、拒否、差別、不活動、有害活動

SAVE = 安全実践 (A+B+C+PMTCT+安全な血液+安全な注射+安全な割礼、等)
治療と栄養摂取へのアクセス
自発的な；習慣的な名誉を傷つけないHIVテストとカウンセリング

HIVエイズ感染者や感染しやすい環境の地域社会、家族、男性、女性、
若者、子どもへのエンパワーメント

ACCREC = ケアリー大僧正地域リソースセンター

FOCAGIFO = キャノン・ギデオン財団支援グループ

SEDOP = 団結強化のための祈りの日

STIs = 性行為による感染症

Ois = 日和見感染症

OVCs = 孤児その他、感染の危険にさらされやすい子どもたち

I. 序

参事司祭ギデオン・バグマ・ビヤムギシャ師（49歳）は、1992年、自らがエイズの感染者であることを公表した最初のアフリカにおける宗教指導者である。1992年と言えば、HIV/エイズは、まだ恐怖と汚名にまみれた、不名誉な病気であった頃のことである。

参事司祭ギデオン師は、専門教育を受けた教師であり、任命された牧師であり、訓練を受けた神学者である。そして彼は国家、国内、非国家組織（特に宗教コミュニティの）に対する、国家レベル、地域レベル、世界レベルの下記に関する最も権威ある情報提供者である：

- a) HIV/エイズに関する汚名、恥辱、否定、差別、不活動、有害活動（SSDDIM）を急速に減退させた。
- b) 次のことを推進した：
 - i. 安全習慣（節制+貞節+コンドーム+PMTC+安全な血液+安全な注射、安全な割礼行為、等）
 - ii. 治療へのアクセス（日和見感染症、性行為による感染症、ARVs）及び栄養摂取
 - iii. 自発的、習慣的、名誉を傷つけないHIVのカウンセリングと検査
 - iv. HIVエイズ感染者や感染しやすい環境の地域社会、家族、男性、女性、若者、子どもへのエンパワーメント。その他の感染症、災害、流行病の対策と防止（SAVE）。

II HIV/エイズのプロとしての歩み

16年間のHIV/エイズへのかかわりと保持者としての生活； ギデオン参事司祭（教育学B.A, 神学B.D. 過程を終了し、ヌンバ大学で修士課程の学生であった）は教師として働いていた（ビショップ・タッカー神学校、ムコノ）；HIVエイズ教育訓練士（ウガンダの地方教会）；健康秘書官/ HIV/エイズ防止マネージャー（ナミレンベ教区）； HI/Vエイズに関するFBOパートナーシップアドバイザー（国際ワールドヴィジョン）また、様々な審議会や評議委員会のアドバイザーを務める（「ウガンダ・エイズ審議会」、「率直対話」財団、「PSIウガンダ」、「アフリカ・エイズ対策・エキュメニカル会議」、「エキュメニカル同盟」、「ウガンダ国立PHAネットワーク・フォーラム」、「アフリカHIV/エイズ対策研究所」、「東アフリカエイズNGO」、「HIV/エイズと共に生きる、或いは自らも罹患者である宗教指導者のアフリカネットワーク」、「感染症研究所」、等）。

ギデオン参事司祭はさらに、ヌンバ大学(ウガンダ)「HIV/エイズと宗教」の時間講師と、汚名、不名誉、拒否、差別、不活動、有害活動（SSDDIM）に対するクリスチャンエイ

ズ/HIV及びエイズの親善大使、東アフリカ、スーダン、ケープ・ホーン救済組織の親善大使を務める。

III 革新的仕事

ギデオン師の上司、友人、仲間の聖職者たち（サミュエル・B・セッカデ司教やサム・L・ルテイカラ師を筆頭に）に支援を受け、ギデオン師は以下を設立した：

- i ケアリー大僧正地域リソースセンター（ACCREC）ウガンダ － HIV/エイズの教会リーダーと会員のトレーニングを実施する：
- ii ギデオン参事司祭支援者財団 － 変革のリーダーシップと開発のためのホープ研究所（孤児、その他の恵まれない子どもたち支援のための職業と専門教育、健康強化、指導者養成を実施）

iii HIV/エイズと共に生きる、或いは自らも罹患者である宗教指導者支援ネットワーク（ANERELA+）－目的は自己に打ち勝ち、社会的汚名を克服し、ポジティブな変化と教会のメンバーや宗教コミュニティに行動を起こさせる力となるようにメンバーを支援すること。そして国レベルのアドボカシー運動、政策構築、戦略計画を推進する。このネットワークは、アフリカの23カ国から全ての宗教を含む1700人以上の会員を持つ。トロントで行われた第16回国際HIV/エイズ会議の期間中、アフリカネットワークのアイデアを国際ネットワークに改善しては、との議論がなされ、2006年11月カンパラ(ウガンダ)で「HIV/エイズと共に生きる、或いは自らも罹患者である宗教指導者支援ネットワーク」の年次定例会（ANERELA+AGM）によって可決された。以来、ネットワークはカリビア海域、アジア、ヨーロッパ、アメリカのエイズと共に生きる宗教指導者を支援し、彼らが行っている汚名、不名誉、拒否、差別、不活動、有害活動などに反対するアクションを支援する。

- vi サミュエル司教の教会堂 － HIVエイズにかかわる問題に教会メンバーレベルで応援する意識改革モデルとなる小さな教会；

2006年、ギデオン参事司祭はワールドビジョンと関係する宗教指導者のサークル、FANERELA+ の支援者やリーダーと協働し、「連帯を強化する祈りの日－SEDOP」（祈りと行動を結することでHIV/エイズを信者レベルで支援の輪を広げ、汚名、不名誉、拒否、差別、不活動、有害活動（SSDDIM）を克服する諸宗教組織）。

IV 著書

キャノン・ギデオンはHIV/エイズに関する著書を4冊出版し、共著の著書は2冊である。著書名は下記の通り：

- i “キリスト教会コミュニティにおけるHIV/エイズのカウンセリング” (第1刷1995年、第2刷2003年)
- ii “私は弟の番人ではない：創世記4章9節の神学と司牧教書による考察” (第1刷1998年、第2刷2003年)
- iii “アフリカHIV/エイズの沈黙を破る：宗教団体は性の問題をいかに信者たちに伝えるべきか？” (第1刷2000年、第2刷2003年)
- iv “教会礼拝でHIV/エイズに向き合う：特別祈祷書” (第1刷1999年、第2刷2003年)
- v “信仰の道：南部アフリカ三国の教会によるHIV/エイズへの対応” Steinitz L. Y; William G; Zondi P. との共著 (2002年7月)
- vi “明るい声：HIV/エイズと共に生き、エイズに感染した宗教指導者たち” Williams G との共同編集 (“神の召命による奉仕”シリーズの中から) (2005年)

V ビデオ

ギデオン参事司祭はHIV/エイズに関する多くのビデオを発表し、HIV/エイズにかかわる汚名、不名誉、拒否、差別、不活動、有害活動 (SSDDIM) を撲滅し安全実践、治療と栄養摂取、HIVテストとカウンセリング (SAVE) を拡大するメッセージを発している：

- i “公然の秘密：ウガンダ社会でのHIV/エイズに対する反応”(イギリスHope Trust の戦略)
- ii “希望の大使” (HIV/エイズに反対する教会連合—CHUAHA-Finland/タンザニア)
- iii “ダーバンシンポジウム2000 国際会議家族の健康”主催IFH (UK)
- iv “生殖衛生に関する宗教衛生組織のアフリカ地域フォーラム”主催IFH (UK)
- v “ウガンダにおけるHIV/エイズへの教会の対応” (クリスチャンAID)
- vi “アフリカの旅” (CNN制作 2003年)
- vii “ギデオンの使命” (ギデオン参事司祭支援財団制作 2000年)
- viii “私に出来る事は？ HIV/エイズ省とギデオン・ビヤムギンシャのメッセージ” (「希望の戦略」UK 制作 2004年)

VI HIV/エイズに関するスピーチ、講義、説教

ギデオン参事司祭はHIV/エイズに関し、汚名、不名誉、拒否、差別、不活動、有害活動 (SSDDI) についての講演や講義を40以上の国々で行っている。彼は国連総会特別セッションで、人口と開発に関する話を (1999) 、そしてHIV/エイズに関する話を (2001, 2006) した。また、アフリカ各国首脳サミット、世界銀行の際アブジャとワシントンDCでそれぞれ講演した。

キャノン・ギデオンは、次の会議でも基調講演を行っている：世界衛生委員会年次総会、HIV/エイズに関する全アフリカ教会会議特別サミット、英国国教会大主教会議、世界宗教者平和会議、世界宗教と開発対話会議、国際エイズ会議 (ジュネーブ、ダーバン、バルセロナ、バンコク、トロント) ； 大学や高等研究機関 (オックスフォード大学バリオルカレッジ、オックスフォード・ミッション研究所、ボツワナ大学、西インド諸島大学、ヌクンバ大学、ウガンダキリスト教大学、デジェ大学、等) での公開講演； 各国でのテレビ・ラジオ出演やHIV/エイズ活動の様々な弊害から安全実践、治療と栄養摂取へのアクセス、カウンセリング (SSDDIM to SAVE) に関する1,000回以上の説教をオーストラリア、バルバドス、ベニン、ブラジル、ボツワナ、ブルンディ、カメルーン、カナダ、ドミニカ共和国、イギリス、エチオピア、フィンランド、ドイツ、ガイアナ、ハイチ、オランダ、インド、アイルランド、ジャマイカ、ケニア、マラウィ、ナミビア、ナイジェリア、ノルウェー、ルワンダ、セネガル、スワジランド、スペイン、スウェーデン、 スイス、南アフリカ、タンザニア、トリニダード・トバゴ、ウガンダ、U S A、ウェールズ、ザンビア、ジンバブエ、の各国で行った。

VII 節制、貞節、コンドーム推進の (ABC) メッセージの改善

汚名、不名誉、拒否、差別、不活動、有害活動 (SSDDIM) 関連のHIV/エイズに対する彼の天職を遂行するプロセスで、ギデオン参事司祭が早い時期から気付いていたことは、節制、貞節、コンドーム (ABC) 推奨メッセージは (性、セクシュアリティ、性に関する保健衛生を、霊的、宗教的、文化的に高める強力なメッセージではあったが) HIV予防、エイズのケア、治療においては、とても不正確で、適切さを欠き、不名誉なものであった。

ギデオン参事司祭がなぜそのように感じたのかは下記のような理由による (そのメッセージは多くの宗教指導者やエイズの教育者たちによって、広く繰り返し伝えられていた) ：

- i. 不正確： 「節制、貞節、コンドーム使用によって全ての感染を予防する事が出来る」と言うのは不正確で、正しくはこの三つは性交渉によるHIV感染を予防する、である。「性交渉を持たなくともHIV陽性となり得る」、とギデオン参事司祭は警告する。

また、誠実さが効果を及ぼすのは、相手のパートナーがHIV陰性である場合のみであり、同時に二人とも他のHIV感染ルートがないように予防している場合である。

- ii. 不適切： 「予防の為のHIV検査とエイズ治療の役割」が明記されていないのは不適切である。また、一つの感染ルートのみをこだわり(それがいかに重要な原因であっても)、個人にその行動の責任を負わせるのは適切ではない。家族一人一人、コミュニティ、全ての組織と団体、さらには世界の国々が責任を受け入れるべきである。「総合的で影響力のあるHIV/エイズへの対策が必要であり、そのためには各分野、レベル、複合的的局面での対応が求められる」とギデオン参事司祭は主張する。
- iii. 汚名ををきせる： HIV陽性者を節制と誠実さを“拒否した”人間と見なすこと、そしてコンドームを使う人を“誠実さ”を“拒否”し、“失敗”した人、と”見なすのは間違っている”、とキャノン・ギデオンは言う。
- iv. ごまかしの安全神話： いかに誠実なカップルでも、HIV感染のテストを受けた事も、その他の感染源の知識もない人は安全とはいえない。

ギデオン参事司祭は、ANERELA, FANRRELA, と共に、安全実践、治療と栄養摂取へのアクセス、カウンセリング実施のプロジェクト”SAVE”を企画した人であり、さらに正確に言えば、正確に、総合的に、不名誉ではないメッセージを発信し、ABCメッセージをさらに強固なものにしています。

S = 安全な営みの為には (A + B + C + PMTCT + 安全な血液 + 安全な注射、安全な割礼施術、等)

A = (性行為による感染症, 日和見感染症と
抗レトロウィルス療法を含む) 治療へのアクセスと栄養

V = 任意の、定期的な、恥とは無縁のHIV/エイズのカウンセリング

E = HIV/エイズの感染者と感染の可能性のある子ども、青年、女性、男性、家族、コミュニティ、さらに世界中の人々を啓発する

ギデオン参事司祭は、このメッセージをUSグローバル/エイズコーディネーター、米国議会の議員、世界の指導者、その他のHIV/エイズのアドバイザーに送り、この問題を意識してもらい、国や地域、国家間のHIV/エイズ関係者たちが、節制、貞節、コンドーム使用 (ABC) の先に行く勇気を持ち、安全実践、治療と栄養摂取、カウンセリング、エンパワーメント (SAVE) が最も適切で正確なメッセージであることを広めたい。そして世界のあらゆる人々がHIV防止の戦略を手に入れる事が出来るように。そしてエイズケアと治療が2010年までには実現するように、願っている。

多くの宗教指導者、開発組織、エイズ教育専門家は、HIV/エイズに関する”SAVE”の可能性と影響力を理解しつつある。そしていくつかの援助団体（ChristianAidのような）は、この感染症を無力化し、打ち負かすために、このメッセージを公式メッセージ/スローガンに採用した。皆様も同じようにこの文書を採用し、皆様の地域社会や国を勇気づけ、救うことが出来る。

VIII 影響力と受賞

参事司祭ギデオン師は 過去・現在・未来にわたりHIV/エイズに対し、分野やレベルの違いを超え、多角的次元で勇敢に戦い、アドボカシー運動を続けている。彼は世界中の数え切れない数の人々や指導者たちに影響を与えた。そして、地域、年齢、性別にかかわらずエイズに苦しむ子どもたちにとって、公正で健康で安全な社会を実現するために、更なる努力を続けようと導き続けている。

彼はあらゆる人々の権利を守る為に驚くべき働きをなしている。すなわち正確で適切な衛生とサービス情報、そして汚名・恥・差別から自由になるための方法を、誰でも得る事が出来るように情報提供している。ANERELA+ を立ち上げる際の彼の指導力とビジョンは多大なもので、HIV/エイズに感染した宗教指導者たちと彼らのコミュニティや教師たちが、第一線に立ってHIV/エイズ及びエイズに関連した様々な障害と戦い、安全実践を広めるときの原動力となっている。これは、子どもたちへの教育、訓練、エンパワーのための個人的使命であると同時に、エイズのために孤児になり、心身ともに傷ついた子どもたちが次世代のリーダーとなり、HIV/エイズと戦う人間に育てるためでもある。そしてこの運動によって彼は20世紀におけるアフリカ大陸の健康衛生と発展に最も寄与したアフリカの指導者50人のうち17番目の人物としてメディアに選ばれた（新聞 ”The New vision Newspaper” 2002年1月27日付け）。選ばれた他の代表的な人々はヨウェリ・ムセヴェニ、トボ・ムベキ、ベンジャミン W. ムカパ、ホアキム A. チサノ、ネルソン・マンデラ、ケイト・ランブル、等、であった。

ギデオン参事司祭は与えられた機会を最大限に利用して、「権力者に向かって真実の声をあげよう」と、世界中の国際会議で預言的な声明を出している。彼は疲れも厭わず各国政府、会社の雇用者、衛生関係のプロ、コミュニティリーダーたちに向かって、その政策やメッセージの誤りを指摘する。そして意図的に、また何気なく、エイズに対する社会の偏見をなくし、HIV/エイズに苦しみ、共に生きている人々の自己イメージを高め、自信を与え、個人の権利と価値を主張し、家族、地域社会、国家の中で、彼らを貶めたり見下したりする勢力に立ち向かっている。疲れ知らずで不屈の奉仕やエイズに対する社会の偏見と戦う働きを通じ、ギデオン参事司祭は大きな進歩を実感した。それは、理解、共感を伴う反応、事実を把握した上での行動や戦略が多くの宗教団体、組織、HIV/エイズの関連団体に見られるようになったからである。

2000年当時、ウガンダエンテベのヌクンバ大学は、ギデオン参事司祭の努力に報いる為

「特別名誉同窓生」賞の授与を決定し、その功績を讃えた。(表彰状の文言：貴殿のためまぬ慈悲にあふれた奉仕は、教師、コミュニティリーダー、ソーシャルワーカー、カウンセラーとしての仕事で明らかである。ゆえに、貴殿の人の幸せを思う意志、特にHIV/エイズと共に生きる人々に寄せる博愛主義、関心、献身に感謝の意を表するものである。)

2001年、ワールドビジョン・インターナショナルはキャノン・ギデオンを「ロバート・W. ピアース賞」の受賞者とし、「HIV/エイズ患者のための不屈の支援者」として特出すべきクリスチャンとして讃えた。同賞の過去の受賞者は、ストロム財団、ノルウェー(2003) ウガンダ・エイズ委員会(2005) フレンズ・アフリカ(2007) ICRW(2007)である。

また、彼はHIV/エイズに対し、不寛容の姿勢、拒否、差別、非難、不活動、有害活動を実施する誤ったキリスト教信仰に立ち向かった。彼のパイオニアとしてのリーダーシップ、創造力、勇気が評価され、ナミビア教区聖パウロ大聖堂(2001年カンパラ、ウガンダ)と聖十字架大聖堂(ルサカ教区 2003年ザンビア)は、聖公会の高位の聖職である「参事司祭」の称号を授与した。聖公会は彼が変わらず奉職するキリスト教会である。彼は叙階した聖職者として教会の信者や教区内の様々な行事に携わり、「アフリカのHIV/エイズ、結核、マラリア対策の能力開発、アドボカシー、情報共有、パートナーシップ強化のための戦略的計画委員会」の仕事をしている。

IX 家族との生活

キャノン・ギデオンは14人兄弟(10人生存4人死亡)の長男として故レイ・リーダー・ジョン・B. カラカビレを父に、メアリー・チャングワ・カラカビレを母に、1959年生を受けた。

1987年にケレン(1991年死去)と結婚。二人の間に二人の子どもをもうけた(1人生存、1人死亡)。二人の娘、ペイシャンス・メアリー・ブシングエ、は思いやりのあるやさしいティーンエイジャーに成長し、孤児やその他傷ついた子どもたちを援助する活動に積極的にかかわっていた。彼女は開発の仕事共に、プロのアーティストになりたいと思っていた。

1995年ギデオン参事司祭はパメラ(彼女はHIV感染者であり、若い時に夫がHIV/エイズで死亡し未亡人になった)と結婚した。

母子感染の予防医学の発達により、幸いパメラとギデオンは今2人の子ども(ラヴとホープ)をもうけ今は4歳半と3歳半である。

2人の子ども、ギデオン師と彼の妻は、HIV/エイズと関連の不幸により傷ついた子どもや孤児たちを大きな家族として迎え入れている。

X 彼のミッション宣言

「私の心、身体、魂を以て神を礼拝すること； 私はHIV陽性であるこの身で神に仕え、その事実を隠さないこと； HIV/エイズをかかえて生きる人々とその家族、その友人たち、先生、職場の同僚、全てを結び、仲間とすること；私の特質はキリストのそれを規範とすること；キリストの恩恵に奉仕すること、そして（勉学、祈り、行動を通して）イザヤ書65:17ffとヨハネ福音書10:10に示された、神のご意志とミッションの成就に寄与すること。

この使命を成就するため、真の友は助けてくれるであろうが、敵対者はそれを邪魔し、団結を解体させ、挫折させようとするだろう。（ネヘミア記4:11）

信仰とは、傷ついた者の真の友人となることである、しかし敵の接吻は欺瞞に満ちている。（詩篇27:6,9）

ああ我が神よ、私はあなたを信じます；過ちを起こさせないで下さい；そして敵に勝利を与えないで下さい。（詩篇歌25:2）

神よ！あなたを褒め称えます、王よ！私は未来永劫にわたり御名を賛美します。毎日あなたを賛美します、そして私が出来ることを行います；（詩篇歌145:1ff）

おお、主よ、（地域、国家、世界でHIV/エイズと共に戦う真の友、先生、仲間を通じて）きっとあなたは私に出来ないことを成してくださるでしょう。」

ギデオン参事司祭の宣言文は二つの額に入れて、彼の事務所と応接間にかけてある。彼は関連団体やフォーラムなどでこれらの言葉を繰り返し復誦している。

XI 究極のビジョン：社会の差別・偏見との戦い及び孤児その他、感染の危機にさらされやすい子どもたちへの支援

ギデオン参事司祭が共通の目的の為に共に働くのは、友人、志のある人々、 Hope Institute for Transformational Leadership and Development を立ち上げた関係者である。この機関は孤児や傷ついた子どもたちの支援をするための訓練センターであり、さらに、衛生強化、リーダーシップの分野の専門家、子どもたちの後見人やコミュニティリーダーとなる人々の教育施設である。

この機関の幅広い目的は、子どもたちの自立を助けること、さらにその先を見据えている。その目的は、リーダーの創出、供給、拡大、人格、知識、技術がそろった優秀な専門家を送り出すこと。そして社会に貢献しHIV/エイズと闘い、年齢、性別、住む場所にかかわらず、より安全で健康な、家族や国家を造ることである。

この機関の目的を以下に記す：

「エイズ対策に精通し、心豊かで確かな技術を備えた若者をリーダーとして送り出し、アフリカの希望の未来を象徴する人材を育て、私たちが理想とするウガンダ建設に貢献すること。」

XII まとめ

ギデオン参事司祭のHIV/エイズにかかわる教会内外と他の宗教社会での社会の偏見・差別への挑戦は成功している。彼はHIV/エイズにかかわる、間違った誤解をまねきやすい情報を正した。そして正確で適切な情報を、明確に分かりやすく提供した。彼はエイズの世界流行にかかわる様々な局面を、分野、レベル、次元を超えて自覚をうながし、情報を広めた。特に、エイズの自己防衛に関する一般の人々の意図、決定、選択は色々な意味で不十分であり、社会経済、政治、精神、文化、ジェンダーの現実には照らしてみると不備な点が多い。それが障害となり、「危険な行動」を適切に防ぐ事が難しいのが現状である。なぜなら、同様に「危険な環境」とは何か、も同時に自覚しなければ効果がないからである。

また、ギデオン参事司祭が明らかにしたのは下手な統治と不正な国際関係が不平等や脆弱さを助長し、助かる命も助けられない、と言うことである。彼は私たちに呼びかける。良い政策を立案し、戦略的計画を練り、プログラムを組み立て、人材を開発し、協力関係を構築し、計画を拡大し、正確な広報を発信して、HIV/エイズ（7つのPs）をなくす努力をしなければならない。

彼と共に（そして彼のように活動する人々と共に）努力すれば、我々は必ずやエイズやその他の貧困、不正義、周辺化の病救済の闘いを成就する事が出来るだろう。

キャノン・ギデオンよ、命長かれ！

HIV/エイズよ、さようなら！